



ふぁみりー

SMA 家族の会 発行
2014年 12月 第28号
<http://www.sma-kazoku.net/>

♪♪ 目次 ♪♪			
・「おふくろの会」に参加して	1 ページ	・関東支部第 5 回定例会に参加して	5 ページ
・HPS 杉渕さまより寄稿	2~3 ページ	・ふれあいキャンプ報告	6~7 ページ
・2014 年 8 月 9 日の家族の会関東支部会に参加して	4 ページ	・「スイッチ & 機器の相談会 in 九州」に参加して	8 ページ
・関東定例会に参加して	4~5 ページ	・事務局より	8 ページ

「おふくろの会」に参加して

東京都 角倉 恵美

初めまして、角倉と申します。

昨夏、一人息子（当時 5 か月）が 1 型と診断されてから、すぐ家族会に入会しました。

しかしオペや入院があり、退院後もケアに追われる毎日…。やっと在宅生活も落ち着いてきて、家族の会のイベントに初参加が叶いました。

会場に集まった「おふくろ」は総勢 19 名！酷暑の中、関東を中心に遠くは熊本、大阪、滋賀、福島から駆けつけたおふくろ達。多くのことを乗り越えてきた先輩方に、私は少々ドキドキしながら自己紹介をしました。今回の参加の中では、最年長は今年大学一年生、そして私の息子が最年少の一歳半でした。タイプ別内訳は 1 型が 4 人、2 型 3 型が 15 人です。



休憩をはさみ、いよいよ斉藤加代子先生の講演です。ちょうどバルプロ酸ナトリウムの医師主導治験について告知されたばかりのタイミング。多忙を極めながらも、治験への熱意を語る先生になんとも心強く感じました。もちろん海外の新薬の治験の話もあり、本当に待ちきれない気持ちです。

続いての質疑応答では、質問も先生の回答も勉強になることばかりで、こんなに一生懸命メモを取ったのは久しぶりでした。

そしてあっという間にお開きの時間に…。斉藤先生のお声掛けで集合写真を撮りました。厚労省へのアピールに使うとのこと。先生とおふくろ達の熱意が伝わり、SMA を取り巻く環境がさらに良くなることを切に願ってやみません。（※その後、先生を囲んでの二次会も某居酒屋で開催されました。私は欠席したので、その様子をお伝えできないのが残念です。）

また機会があれば、ぜひ家族の会のイベントに参加したいと思っております。8 月の関東支部の定例会にも参加予定です。

『おふくろの会』日時：7月 27 日（日）13：00~16：30 場所：タワーホール船堀 402 会議室
内容：『SMA の医学的最新版』 斉藤加代子先生をお招きして。

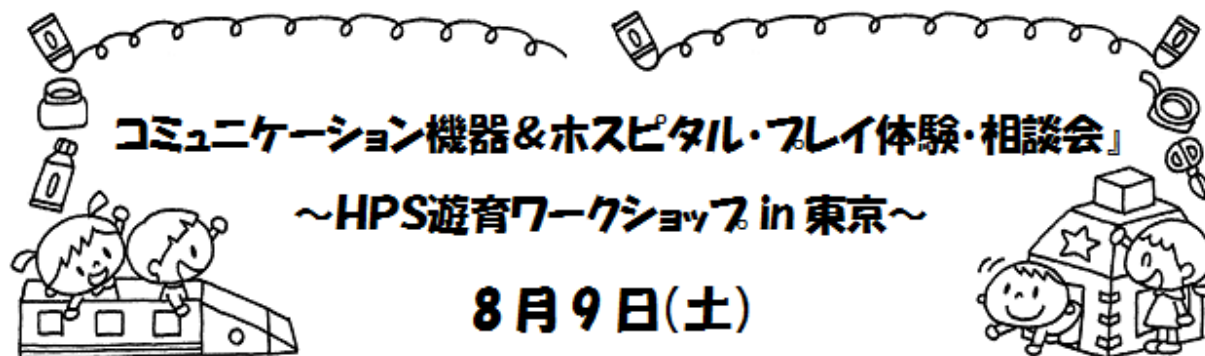
広報では会報『ふぁみりー』へのご投稿をお待ちしております。

会の行事への参加、日常のこと、旅行記、創作品、便利グッズ、などなど。

「キッズコーナー」も含め、皆様のご寄稿をお待ちしております。

寄稿についてのお問い合わせは広報メールアドレス（kouhou@sma-kazoku.net）まで。





8月9日(土)、東京でHPS遊育ワークショップが行われました。

これまで、静岡・神戸で開催されてきましたので、「今度こそは東京で」「いよいよ私たちの出番よ」と、HPS関東ブロックのメンバーは1年前からはりきって準備を始めました。事前準備もようやく整い、開催まであと数日となった頃、今度は「台風が関東を直撃か」と、ハラハラドキドキ天気予報を見る毎日でした。楽しみにこの会を待っていた方々のパワーに台風も足踏みしたのか、降ったりやんだり雨空でしたが、何とか皆様において頂き開催することが出来ました。

当日は予想を上回る大勢の方々にご参加いただき、賑やかな活気ある会となりました。

スイッチICT救助隊や電動車いす体験、視覚入力「マイトビー」新型ソフト、遊びコーナー等々がワンフロアの講堂に集いましたので、盛りだくさんの企画に、ゆっくり体験出来なかったコーナーもあったかもしれませんが、午前中から懇親会の夕方まで、長時間ご参加いただきありがとうございます。

私達HPSの遊びのコーナーは、子ども達の笑顔と歓声でいっぱいになりました。



万華鏡とマイテコレーションバック

「可愛い」「きれい」という反応や声に嬉しく思いました。
子ども達はとても集中して作成していました。



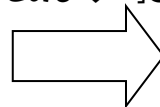
ボウリング

はじめは「できるかなあ～」と言っていたお母さんが、お子さんがピンを倒すのを見て「できた！うまい！」と喜んでいました。「できない」を「できる」に変えることが出来る遊びの力を感しました。何度も戻って来て、挑戦してくれました。

シリンジまどあて



シリンジに始めは戸惑ったようでしたが、水が勢よく飛び出す様子を見て、表情が和らぎ、楽しそうに何度も遊びに来てくれました。ご家族は「シリンジで遊べると思わなかった。家でもやってみよう！」と言っていました。



～☆～。～☆～° ～☆～。～☆～° ～☆～。～☆～° ～☆～。～☆～° ～☆～° ～☆～° ～☆～° ～☆～° ～☆～° ～☆～°

『コミュニケーション機器&ホスピタル・プレイ 体験・相談会』(関東支部 第35回定例会)

日時: 2014年8月9日(土) 11:00～16:00

会場: 東京都立小児総合医療センター 講堂フォレスト

プログラム ・ICT救助隊による「スイッチ」「コミュニケーション機器」の適応相談

・ホスピタル・プレイ・スペシャリストによる「遊び」体験

・最新のコミュニケーション機器展示



砂場

キネスティックサウンドは大好評。あれ？これ普通のと違う」「簡単に形が出来るよね。よし、ケーキ作るよ！」と楽しい会話も聞かれ、きょうだいも親御さんも一緒に楽しんでいました。



ボールいかけ

いつもの車いすやバギーとは違う新感覚が楽しめたのでは？初めてボールプールに入った！というお母さんも。

ダイナミックな動きを好む子が多く、歓声をあげていました。お兄ちゃんと一緒に入り、やさしく上手に、でもちょっと興奮気味に遊んでいたのも印象的でした。



すべり台

すべり台を見るなり、躊躇するどころか「やってみよう！初すべり台」と、お子さんを誘い、家族一丸となって挑戦していました。怖くて滑れなくても、お父さんが滑ってみせ、もっともっとと何度もせがまれ、汗だくで楽しませてあげていました。



パラシュート

会の終わりは、パラシュート！みんなで輪になり歌いながら、パラシュートの風や光を楽しみました。楽しかったひと時を思い、惜しみながら遊びの会を締めくくりました。

参加してくださったご家族の皆さんは、とにかく積極的でした。子どもたちは目を輝かせ、口角をピッと上げ、顔の皮膚をピーンと張り、ワクワク感とドキドキ感いっぱいの子もらしい表情でした。初めてのことに挑戦し、喜怒哀楽を全身で表現し、子どもらしく過ごせた一日だったのではないのでしょうか。何度も何度も繰り返し遊びに来てくれました。「デイズニューランドに行った時より楽しそう」と言ってくださったご家族の言葉が、私たちの励みになりました。

準備は大変でしたが、子どもの笑顔を見るたびに、嬉しい気持ちになり元気をもらいました。

私達HPSは、すべての子どもの笑顔のために、これからも切磋琢磨しなければと心を新たにす一日でした。ありがとうございました。

ペンダントづくり



スヌースレン

蛍光絵の具入りの紙粘土やビニール袋で光るものを作って、それを持ってテントに入りました。

テントの中は、光と映像、音楽と香り、水族館の中にいるような幻想的な空間でした。入ってくださった皆さんからは歓声もあがり、喜んでもらえて良かったです。



2014年8月9日の家族の会関東支部会に参加して

福島県 竹村 真生子

娘 凜生（8月11日で2歳）がSMA（Ⅱ型にちかいⅠ型）と診断されてちょうど1年の2014年8月9日、関東支部会の家族会に参加しました。

昨年10月の支部会が初めてで、今回は2回目の参加でした。

昨年10月は八雲病院 石川先生のお講演だったので、Ⅱ型の方たちの参加が多い印象でしたが、今回はスイッチやコミュニケーション機器、遊びがテーマということで、Ⅰ型の患者さんやご家族にもお会いすることができて、いろいろお話を聞くこともできました。

駅につくと、親切にも介護タクシーボランティアさんに送迎までしていただき、遠くからの参加でしたが、ありがたくて、また緊張もとれ、リラックスできました。娘もバギーのまま車にのったのは初めての経験で、なんだかうれしそうでした。

会場では、まだ娘は小さいこともあり、遊びのなかではボールの上に乗って板をのせてゆらゆら動くのがいちばん気に入った様子でした。ふだん通っているリハビリで、ボールの中に入ることはあっても、板の上に横になっているような方向に動くということはなかったので、私としても「こんな遊び方があるんだー」と、新発見でした。また、暗いテントの中の水族館も気に入った様子でした。

佐賀大学の先生が開発したというスイッチで移動できる台車、これもすばらしかったです。2歳にならなくても、ちゃんと自分でスイッチを押すとすすんで、スイッチを離すと止めることができる、ということを知り、感動しました。そしてこの体験ができたのは、案内の方がいない中、ある患者さんのお母様に、手作りのスイッチを貸していただき、実際に娘を乗せていただいたからこそできたことでした。この場を借りてお礼申し上げます。私は、自分の娘のことで精いっぱい、なかなか他の方のことまで気がまわらず、そのお母様のように、他の方にも気配りできるように自分も成長しなければと思いました。



スイッチに関しては、まだ導入を考えていませんでしたが、工夫すれば自分で作成できるということを知ることができたことや、きいたことはあっても見たことはなかった「レッツチャット」を操作させていただくことができ、勉強になりました。

また、懇親会その他で、前回の支部会でお会いできた方をはじめ、何人かの方にいろいろお話をうかがうことができ、今後娘に起こりうることや、対処法などの情報を得ることができ、また同じ病気と闘っている親御さんと話せて励みになり、私にとってはこれがとても有意義でした。

SMAという病気、これからいろんなことがあるかと思いますが、娘が生きている時間を大事にしながら、出来る限りの可能性をのばしてあげたいと思っています。また、私自身、親として、人間として成長していかなければいけません。

そのためには、程度こそ違えども、同じ病気をもつ患者さんご本人や、ご家族からの情報と、励ましあいが本当に必要だと思いますので、これからも皆様にいろいろご指導いただければと思っています。

参加させていただき、ありがとうございました。

今後も、娘の体調が許す限り、家族の会へ参加させていただきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いたします。



関東定例会に参加して

群馬県 高橋 恵美子

定例会に初めて参加させて頂きました。うちの娘は2歳4ヶ月の2型です。手の力も弱く座位もとれません。家の中での遊びは限られてしまいますし、子供の遊び場に行っても遊べるものが少なく、いつもはやりたくてもやれないイライラがあるようです。親の私たちも遊べないからと遊び場はさけてしまう事もありますが、定例会での遊びは小さな力でも出来る遊びが考えられていて、娘の力でも遊べたので大喜びでした。最初は人の多さに大人しかった娘も、徐々に慣れて、いろいろな遊びを率先してやるようになり、特に軽いスイッチを押して動く人形は、興味津々で楽しんでいました。自分で動かしている、出来るっていうのが分かってやほり嬉しいみたいです。

部屋で砂遊びができるものもあり娘はとても楽しそうに遊んでいて、親も一緒に砂遊びを楽しむことができました。形がすぐに出来て崩れない、手にもあまりつかない、不思議な砂があるんですね。早速家でも取り入れて遊ばせたいなって思いました。

(続く) ➤

関東支部第5回定例会に参加して

東京都 瀬尾 武志

家族の会の皆様、はじめまして。東京都府中市在住の瀬尾と申します。昨年秋にSMAⅢ型と診断を受け、年末に家族の会に入会いたしました。

今回は、関東支部第35回定例会に参加させていただきましたので、感想を述べさせていただきます。

今回の定例会のテーマは「コミュニケーション機器&ホスピタル・プレイ体験・相談会」ということで、自分にはあまり縁の無いものではありませんでしたが、入会后初の関東定例会であり、また、コミュニケーション機器については自分の病気について調べた際に写真を見た程度であるため、もう少し詳しい情報を得ておきたいと思い、参加することとしました。

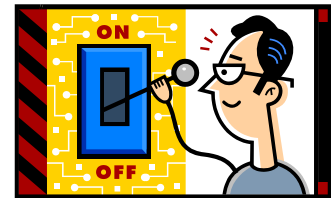
当日は、台風の接近により直前まで開催が危ぶまれるような状態でしたが、なんとか台風は西にそれたようで、曇り空の中を会場の小児総合医療センターへ。小児総合医療センターは私のかかりつけの多摩総合医療センターの隣ということもあり、すんなりとたどり着けましたが、講堂の入り口がわかりづらく少し悩みました。

会場に到着したのは、ちょうど事務局の藤原さんの挨拶が始まった頃となりましたが、挨拶の後、さっそく藤原さんに声をかけられて、しばらく受付を手伝ってほしいかとのお願いが。

まさかこういう展開になるとは思いませんでしたが、一人での参加でそれなりに自由に動けますので、しばらく受付を手伝うことに。簡単に説明だけ受けて受付に座っていましたが、幸いトラブルも無くこなせました。

しばらく受付を手伝った後、遅めの昼食。ここのレストランは値段の割りに味がよいので気に入っています。そして、昼食を終えてから会場へ。

展示されているコミュニケーション機器は、写真で見たことがあるようなものもありましたが、実際に動いているところを見るのは初めてでした。スイッチひとつでの入力はどうに行うのか知らなかったのですが、実物を見て納得できました。また、一般的なコミュニケーション機器以外に、視線による入力装置など、これからの技術の発展を期待させるものもあり、非常に興味深く見ることが出来ました。



会場では、コミュニケーション機器の展示の他に、ホスピタル・プレイ・スペシャリストによる遊び体験コーナーもありましたが、さすがに「遊び」という年齢でもありませんので、こちらは遠くから眺めるのみ。それでも、遊んでいるSMAっ子の皆さんの笑顔でこちらまで楽しくなってきました。

そして、定例会の後は場所を移して懇親会へ。あまり広いとは言えない会場でしたが、そこにバギーや車椅子が並ぶ姿は壮観でした。ただ、今回は定例会のテーマがコミュニケーション機器であったためか、成人の参加者が少なくあまり情報交換できなかつたのが少々心残りではあります。

定例会、および懇親会に初めて参加した感想としては、成人の参加者が少なかったことは残念ですが、今まで知らなかった機器についてしることができ、また、会の雰囲気を実感することも出来て有意義なものでした。心配だった天気も夕方まで大きく崩れることは無く、非常に充実した一日となりました。

次回の定例会がありましたら、是非参加させていただきたいと思います。また、ある程度自由に動ける会員は貴重な戦力とのことでしたので、次回参加する際は、受付などできる限り手伝わさせていただきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

第35回定例会「家族の会 blog」記事 <http://smajapan.blogspot.jp/2014/08/blog-post.html>



コミュニケーションツールは勉強、遊びなどでも使えて、パソコンとは違う使い方が出来ると知りました。書く力や押す力が弱い娘でもタッチパネルでの操作を覚えると、出来ることが多くなると思います。

他にもいろいろな遊びがたくさんあって、お昼の時間になっても会場から出たがらず、ようやく食事ができたのは2時を回っていました。お昼を食べてもまた会場に戻るといい、終了時間までずっと遊んでいました。手作りの水鉄砲やボーリング、蛍光で光る部屋、ボールのプールなどがあって、本当に楽しい時間だったようです。

自分で出来る！ 遊べる！ っていうのがどんなに大事か実感できた定例会でした。

その後の懇談会も参加させて頂きましたが、普段会えない家族の会の方といろいろなお話しが出来て良かったです。車椅子の相談やコレットのこと、日常生活など、聞きたい事がたくさんあったのでこういう会はすごく有難いです。

いろいろと貴重な経験やお話しが出来て、定例会と懇談会に参加出来てよかったと思います。会を開催するにあたって準備をしてくださった皆さんに感謝します。ありがとうございました。

ふれあいキャンプ報告

愛知県 SMA 家族の会 副会長 林智宏

9月13日(土)、14日(日) 緑と水のきれいな愛知県北設楽郡東栄町にて1泊2日のお泊り会を開きました。今年、SMA 家族の会とバクバクの会共催で行ったことで、人のネットワークがさらに広がり、ボランティアのみなさん、レクリエーションを企画してくれる方々が集まり、例年以上に充実したものとなりました。まずは会員参加者、参加した子供達の感想から。



佐野 夢果 (SMA2型 小学2年生)



ふれあいキャンプに行って来ました。私は2回目のキャンプです。学校のお友達ファミリーもいっしょに行きました。大好きな、お友達、きょうちゃんやうたちちゃんも一緒でした。みんなで、ゲームをしたり、ご飯を作ったり楽しい事いっぱい。みんなで作って、みんなとお外で食べるご飯はとってもおいしかったです。チームになってゲームをしたり、自然とお友達がいっぱい出来ます。去年、仲良しになったお友達が私に会いたかったのと来てくれました。とってもうれしかったです。きょうちゃんやうたちちゃん、お友達みんなと妖怪ウオッチのダンスをした事が1番の思い出です。きょうちゃんといっぱい、おはなしできた事もうれしかったです。きょうちゃんは目でこんにちわはってえがおで言ってくれます。私はきょうちゃんのえがおが大好きです。いろいろなイベントがあって本当に楽しいキャンプです。ハートいっぱいのキャンプ。また来年もかならずさんかしたいです。キャンプのおともだちとの心のつながりをずっとずっと大切にしていきたいです。みんないっぱいのハート、えがお、元気パワーをありがとう。



【バレーンアートのお兄さんと】

関 歌子 (SMA I型 小学2年生) 関 哲雄 靖子 (ご両親)

ふれあいキャンプへの参加は今年で3回目となります。毎年大勢のボランティアさんや同じ境遇の家族との出会いがあります。緑深い開放的なキャンプ場で 大勢で食事を作ったり、レクリエーションを楽しんだり音楽に合わせて踊ったり、笑顔に溢れる時間を過ごすことができます。

「みんなの手でみんなの気持ちでバリアフリーを作る」そんな想いが参加者のみなさんからひしひしと伝わってきます。今年小学2年生になる娘の歌子は閉会式で、文字盤を使ってみんなの前で「またきます」と伝えていました。



【就寝前のみんなとUNO】



【自宅に帰って文字盤で日記をつけているところ】

自宅に戻って歌子と日記をつけているときも

「またきます」一緒に参加した友達の名前を並べていました。学校の先生からも「大勢の人たちの前で自分の思いを伝えることができた」と聞いて言葉が出ないくらいうれしく思いました。聞き手が出した言葉ではなく自分の言葉というところ本当にうれしく思います。彼女の前進する姿がまぶしいです。この気持ち思いを大切にしていきたいと思います。」とコメントをいただきました。

「楽しい気持ちを伝えたい」とても自然で大切な心を育ててくれた今年のふれあいキャンプでした。

平野 雄真 (小学5年生)



「ふれあいキャンプに参加して」

ぼくは、9月13日、14日にキャンプに参加しました。このキャンプは、とても楽しいです。みんなで遊んだり、夕食作りなどいろいろなことをします。障害をもっている子たちがどれだけがんばって生きているのかを感じさせられる会です。来年も来たいです。



平野 和真 (小学2年生)



「ふれあいきゅんぷにさんかして」

ぼくは、ふれあいきゅんぷでいちばんたのしかったのは、みんなで、ごはんをつくったことです。あと、はなびもたのしかったです。これからもずっとずっといきたいです。



今年のふれあいキャンプ『ふれキャン』は子供達の参加も多く、決してバリアフリーな場所ばかりではない会場ですが、参加者みんなが助け合い、心のふれあいが多きものとなりました。飯盒炊さんやレクリエーションごとに場所が変わり、地形的にも凸凹があったり、こどもたちの格好の遊び場になったようです。醍醐味は、夕食、朝食とみんなで作る食事、今年は花火も大好評でした。

ふれあいキャンプの歴史は、約20年前「バクバクっ子(人工呼吸器をつけた子)の立山登山」に端を発しています。当時、20キロ近い重さがあった人工呼吸器をかつぐサポーターさんたちでグループをつくり、7人のバクバクっ子と車椅子の子供1人が総勢100人余の集団で無事、立山登山、下山した翌年から始まっています。私たち家族もこの5年間家族で(SMA I型っ子、妹、両親)でふれキャンに参加する中で学んだことがあります。

「人工呼吸器をつけていても、どんな障がいをもっている人もサポートしてくれる人と社会の創意工夫があればできないことは何もない」ということです。

このキャンプには SMA 家族の会会員同士だけの集まりでないところに大切な部分があります。参加する会員家族やそのきょうだいと会員以外の家族やハンデを持っている当事者。さまざまな環境の方がいて、お互いに足りない部分に気がついたり、どんな支援が必要なのかを考えさせられたり、「障がいを持っている当事者メインに楽しませてもらう」ではなく、「みんなで作っていく」という対等な関係があります。

そういった意味合いからも毎年 SMA 家族の会に紹介させていただいています。

また、障がいの種別や障がいの有無を越え協力し合い、ハンデを持つ当事者(子供達)や家族が「福祉や医療、教育の受け手側から担い手」として活躍できる社会や学校になって行くことを私は夢見ています。

と、堅い話ばかりになってしまいましたが、年々楽しさと人とのつながりがアップする『ふれキャン』には是非みなさん来年もご参加ください。お出かけ、お泊まりが初めての人でも安心して参加できるよう、慣れた支援者さんもたくさんいますし私もサポートします。レクリエーションや食事作りも楽しいですよ。来年はぜひお会いして、学校生活のこと、在宅生活のこと、コミュニケーション方法のこと話しましょう。よろしくお祈いします。



【お母さんと花火を楽しむ】

「スイッチ&機器の相談会 in 九州」に参加して

福岡県 廣田 愛

家族の会会員の皆様、ML 等でいつもお世話になっております。日ごろから会の活動にご尽力下さっている役員の皆様ありがとうございます。

9月14日に福岡の大牟田で行われたスイッチ相談会に参加させて頂きました。関東・関西へは遠方のためなかなか参加できずにいましたので、今回楽しみにしていました。せっかくの機会ですので娘本人(SMA I型・6歳)も連れて参加しました。

当日は娘の体力も考え遅れての参加になってしまい、あまりゆっくりスイッチや機器の展示を見ることができず少し残念でしたが(関係者の皆様にはご迷惑をお掛けして申し訳ありませんでした。)それでも以前から気になっていたマイトビーの視線入力や電動遊具を実際体験させて頂き貴重な経験ができました。

娘自身も広い会場を自由に動き回れたのが楽しかったようです。

また、電動車椅子を1スイッチで操作できる入力装置のことを教えて頂いたのも、嬉しい情報でした。(今仙技術研究所の車椅子オプションの商品)普段は娘に電動遊具を操作させる場合、PPSスイッチを3つ使用して右手で前進、左手で旋回、足で後退、という方法をとっていました。これだとスイッチがたくさん必要だし、線だらけになるし、動き出しの椅子の揺れのせいで誤入力が度々あり悩んでいました。せっかく本人はやる気があるのに環境を整えてあげられないのは、とてももどかしいことです。

それが、1スイッチで操作できるようになるかもしれないなんて!本当に嬉しい発見でした。まだこれから試乗させて頂く段階なので実際は上手くいくか分かりませんが、将来娘が自分の意思で自由に動き回れるようになるかもしれない、と大変期待しています。娘は来年小学校に入学するので、広い体育館でお友達と走り回ってくれたらなあ、と夢見ています。

スイッチや機器は専門の知識が必要で少し複雑なのでなかなか素人の私には難しく、すぐに諦めがちなのですが、こういった会では専門の方が詳しく親身に色々教えて下さるので本当に有難いと思います。これまでも、無理だと諦めていたことが色々な方のお力添えで突破口が見つかったことも多く、本当に感謝しています。人との出会いや繋がり大切さを改めて感じます。そういう出会いの繰り返しを基に娘の今の生活が成り立っているのだと思います。

そして今回は、普段なかなかお会いする機会の少ない会員の方やそのご家族の方々に出会えたのも大きな喜びでした。懇親会ではそれぞれの置かれている状況や、使っている機器やバギーやケア、就学に関する事等の情報交換ができ有意義な時間が過ごせました。皆さんが頑張っているのをお聞きして、励みになり新たな力を頂きました娘にも良い刺激になったと思います。また機会があれば是非ゆっくりお話したいです。

最後になりましたが、当日遠方から駆けつけて下さった事務局の藤原様、ICT 救助隊の皆様、病院関係者の皆様、本当にありがとうございました。



『スイッチ&機器の相談会 in 九州』

日時：2014年9月14日(日) 12:00~16:00 (受付開始は11:30)

会場：国立病院機構大牟田病院

プログラム：ICT 救助隊による「スイッチ」「コミュニケーション機器」の適応相談
最新のコミュニケーション機器展示

☆☆☆ 上記イベントの「家族の会 blog」記事 http://smajapan.blogspot.jp/2014/09/in_17.html ☆☆☆

==== 事務局より =====

～ 携帯メールをお使いの方へお願い ～

事務局 (smajimkyoku@sma-kazoku.net) への問い合わせに携帯アドレス (OO@docomo.ne.jp や XX@ezweb.ne.jp など) をお使いの場合、迷惑メール対策の設定をしておられると、こちらからの返信がエラーとなり受信できないことがあります。各携帯電話会社に確認の上、事務局アドレスを受信可能ドメインに指定していただきますよう、よろしくお申し上げます。

◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆

今年の家族の会の催しは、HPSさんやICT 救助隊の皆さんとの繋がりをより強く、地域も広げて開催できた年でもありました。11月に京都で行われた催しの様子は次回会報でお届けいたします。次号は来年ですね。皆様よい年をお迎えくださいませ。

広報 長谷川